

③ 2023 年度「QE ガイドライン」について

マクロ経済学	目的	マクロ経済学の QE では、博士後期課程において博士論文を執筆するために必要となる動学的マクロ経済学の基礎的知識、及び、基礎的能力を評価する。
	出題範囲	「マクロ経済学 A/B」の授業内容・授業水準に基づいて出題されます。出題対象は、ミクロの基礎付けを持つ動学的マクロモデルが中心となります。具体的には、新古典派成長理論、内生的成長理論、無限期間モデル（ラムゼイモデル）、リアルビジネスサイクルモデル、消費理論などの理解度と応用力を確かめる内容とします。
	出題形式	試験は大問 2 題程度とします。
	合格の目安	基本的な動学最適化問題を解くことができ、動学マクロ経済モデルの持つ経済的な含意が理解できていることが合格の目安となる。
	リーディング・リスト	[1] David Romer, <i>Advanced Macroeconomics</i> , 5th ed., McGraw-Hill, 2018 [2] 齊藤誠『新しいマクロ経済学 - クラシカルとケインジアンとの邂逅』, 有斐閣, 2006 年 [3] 二神孝一『動学マクロ経済学 成長理論の発展』, 日本評論社, 2012 年 [4] 蓮見亮『動学マクロ経済学へのいざない』, 日本評論社, 2020 年
ミクロ経済学	目的	大学院修士課程の「コースワーク」として重要であり、博士論文研究を行う基礎力としてマスターしておくべき文献の中から、標準的な問題を出題する。試験内容は、理論を専門とする研究者だけでなく、広く応用分野の研究者にとっても有益な基礎的なものとし、博論研究を行う上での基礎力を十分身に付けているかどうかを審査することを目的とする。
	出題範囲	科目群「ミクロ経済学 A/B」の範囲を中心とする。 内容は、完備情報の静学・動学ゲーム、ナッシュ均衡（混合戦略を含む）とサブゲーム完全ナッシュ均衡の求め方、およびこれら均衡概念を用いた経済モデル（寡占市場、交渉モデルなど）の分析、消費者理論、生産者理論、需要関数・供給関数の導出、一般均衡と経済厚生が含まれる。受験者は、試験を受けるにあたって、下記の文献の標準的な内容を十分理解しておくことが求められる。
	出題形式	出題範囲から大問 2 題程度を出題する。
	合格の目安	基礎的・標準的な内容の十分な理解が合格には求められる。
	リーディング・リスト	[1] 西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社, 1990 [2] Robert Gibbons, <i>Game Theory for Applied Economists</i> , Princeton University Press, 1992 (日本語訳『経済学のためのゲーム理論入門』ロバート ギボンズ (著), 福岡 正夫 (訳), 須田 伸一 (訳) 岩波書店, 2020 年)
経済史	目的	博士後期課程において研究を遂行するために必要となる基礎があるかどうかを確認する。
	出題範囲	下記リーディングリストは 比較経済史、制度派経済史、世界経済史（グローバル・エコノミック・ヒストリー）、の代表的文献である。このうち二つを選び、内容把握と議論の整理ができるかを問う。
	出題形式	試験は大問 2 題とする（選択式）
	合格の目安	① 経済史の問題領域に関する基礎知識 ② 基本的な論理展開 ③ 研究史の論点整理 ① ②が合格には必要とされる。また、③についても一定水準以上が望まれる。
	リーディング・リスト	[1] 斎藤修『プロト工業化の時代—西欧と日本の比較史』岩波現代文庫、2013 年 [2] ダグラス・ノース『経済史の構造と変化』日経 B P クラシックス、2013 年 [3] ケネス・ポメラント『大分岐：中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成』名古屋大学出版会、2015 年 [4] 杉原薫『世界史の中の東アジアの奇跡』名古屋大学出版会、2020 年
計量経済学	目的	博士論文作成を行うにあたって必要となる基礎力が身につけているかを確認する。
	出題範囲	出題範囲は、科目群「計量経済学 A/B」の範囲を中心とする。一般化古典的回帰モデル（クロスセクション、時系列、パネル）、漸近理論、統計的推論、内生問題などが含まれる。
	出題形式	大問 2 題を出題する。
	合格の目安	標準的な計量経済学の理解、及び実証分析への応用力が認められる水準に達していることが、合格の目安となる。
	リーディング・リスト	[1] James H. Stock, Mark M. Watson, <i>Introduction to Econometrics</i> (4th edition), Pearson, 2019 [2] Jeffrey Wooldridge, <i>Introductory Econometrics: A Modern Approach</i> (7th edition), South-Western, 2019 [3] 浅野哲、中村二郎、『計量経済学（第 2 版）』（有斐閣、2009 年）